

授業概要

算数科の授業を行うために、指導者として必要な基礎的知識の理解を深めるとともに、算数科における指導方法及び技術、教材研究の手法、指導案の作成方法など具体的な算数科の教育法を習得させ、教育実践につながる能力や技術及び態度を育成することを目標に講義をする。指定された単元について内容や評価規準・基準などをまとめた予習ノートをもとにグループによるミーティングを行い、学習を深める。このような学習活動を通して、授業をどのようにして組み立て、構成するかを理解し、自分の考えをまとめる力、内容を理解する力、問題点を見付ける力を身につける。

授業計画

第1回	オリエンテーション、算数科の目標について
第2回	授業記録の作成（授業DVDを視聴しその記録を取る）、指導案の作成
第3回	算数科における評価
第4回	算数科の各領域の内容と指導（1）・A領域のねらい、学年別の指導内容、教材分析
第5回	算数科の授業づくり（1）・前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第6回	模擬授業（1）・授業記録の作成、模擬授業の評価
第7回	算数科の各領域の内容と指導（2）・B領域のねらい、学年別の指導内容、教材分析
第8回	算数科の授業づくり（2）・前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第9回	模擬授業（2）・授業記録の作成、模擬授業の評価
第10回	算数科の各領域の内容と指導（3）・C領域のねらい、学年別の指導内容、教材分析
第11回	算数科の授業づくり（3）・前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第12回	模擬授業（3）・授業記録の作成、模擬授業の評価
第13回	算数科の各領域の内容と指導（4）・D領域のねらい、学年別の指導内容、教材分析
第14回	算数科の授業づくり（4）・前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第15回	模擬授業（4）・授業記録の作成、模擬授業の評価
第16回	定期試験

到達目標

- ・予習・復習の必要性を理解し、学習習慣を身につける。
- ・自分の考えをまとめる力、内容を理解する力、問題点を見付ける力を身につける。
- ・他者の話を聞く、自分の考えを的確に伝えるなどのコミュニケーションスキルを身につける。
- ・教材研究の手法を身につける。
- ・小学校算数科の目標や指導内容を理解している。
- ・授業を構成し、指導案を作成することができる。

履修上の注意

- ・LTD話し合い学習法に基づいてミーティングを行うので、予習ノートを必ず作成して授業に臨む。
- ・予習ノートや各自の指導案はミーティング終了後に必ず提出する。
- ・遅刻・欠席はミーティングの妨げになるので極力しない。

予習復習

予習：第1、3回目の授業で説明する予習の方法に従って、予習ノートを作成する。指導案を作成する。予習ノートや指導案はミーティング終了後に提出する。

復習：第1回目の授業時に配布する「小学校算数科の内容と目標」の問題例、目標を記入する。

評価方法

予習ノート（10%）、指導案（12.5%）、授業記録（2.5%）、課題「内容と目標」（25%）の評価点と定期試験（50%）の結果を総合的に判断して評価を行う。なお、遅れて提出された予習ノート、指導案、授業記録、課題「内容と目標」は評価しない。

テキスト

文部科学省 2018, 「小学校学習指導要領解説 算数編」, 東洋館出版社
「新しい算数3上、4上、5上」, 東京書籍